

HTB シリーズ企画  
「老いるショック」  
平成 28 年日本民間放送連盟賞 特別表彰部門  
「放送と公共性」で優秀賞を受賞

夕方の情報番組「イチオシ!」のシリーズ企画「老いるショック」が、平成 28 年(2016 年)日本民間放送連盟賞特別表彰部門「放送と公共性」で優秀賞を受賞しました。2015 年 9 月から老いにまつわる多様なテーマを地道に取材、放送してきた姿勢が高く評価されました。特別表彰部門「放送と公共性」での受賞は、2008 年「イチオシ! 市民を動かした政務調査費報道」、2015 年「詐欺撲滅キャンペーン 今そこにある詐欺」に続き、3 度目となります。

なお、同部門「青少年向け番組」で、HTB ノンフィクション「おはよう。いただきます。さようなら。」～弁華別小最後の一年～が優秀賞を受賞し、特別表彰部門で W 受賞となりました。HTB は、地域メディアとしてこれからも人々の暮らしや生活実感に根差し、社会の解題に光をあてる地域ジャーナリズムを深化させていくことを目指します。

【シリーズ企画担当 坂本英樹プロデューサーのコメント】  
超高齢化社会を迎える時代にあって、豊かだと思っていた老後が裏切られるショッキングな現実から目をそらさず、取材対象に真摯に向き合い、視聴者にとって本当にためになる報道は何か。地域にこだわることで見えてくる老後の共通課題を伝え、問い続けていきたいと思います。

【入賞した企画の内容】  
日本が超高齢化社会を迎えるなかで、北海道の事情はどうかという疑問から立ち上がった企画です。取材中、妻を介護する高齢男性の言葉がスタッフを大きく動かしました。「大きな問題提起をされても、私たちには 1 ミリの役にも立たない。」「介護をしている私たちが、あす参考にできる情報が知りたい」。シリーズ企画「老いるショック」は、問題を具体的に伝え、ともに考えることをテーマに掲げ、これまで年金、介護保険制度、認知症など高齢者の現状や行政の問題を多方面から掘り起こしました。放送した動画は、HTB のホームページや YouTube でいつでも視聴でき、講演など地域活動にも発展しています。

\* 日本民間放送連盟賞 特別表彰部門

日本民間放送連盟(民放連)が 2006 年新設した部門賞で、このうち「放送と公共性」は、放送の公共性を強く意識しながら民放各社で取り組んでいる企画や開発の事績に対して、賞が贈られています。